



子育て伴走「そげだがあ」通信 No. 4 ～みんな大切 笑顔あふれる家庭と保育園に～



R 4. 7. 27 やすぎ保育園園長 福島朗博

◆7月の園風景から 自然にふれる親しむ ☂雨を楽しむ ☂

ある雨上がりの日、色とりどりのカッパを着込んだそら組4歳児さんの姿が園庭に映えました(写真上)。同じ頃、5歳児さんも同じようないでたちで屋外に出て散歩に繰り出し、近所の方に咲くアジサイを見つけたりしていました(写真下)。子どもは発見が大好き。いろいろなものを見つけてその子なりに感じたことを大切に成長につなげていきたいと思えます。

また、駐車場から保育園に向かう道路端にあるプランターの野菜や花を眺めながら会話している親子の風景も素敵です。子どもの「見つけた！」

「ねえ見て」の指さしと視線の先にあるものを「どれどれ？」と見つけてあげてくださいね。



◆ことば・子育て相談会から 「いやいや」期をどうのりきるか

1歳半ばに、「いや！」と顔をふり、「こっちではなくて、あっちだ」と選びとるかたちで生まれた幼い自我は、2歳になると「大きい・小さい」「いっぱい・ちょっと」などと2つの対になることがらわかり、意味の世界が広がっていきます。3歳になると、自分ができることが増えて、からだの発達に伴い、「一人でできるもん」「自分でやりたい」という主張が強くなっていきます。



小児医ウィニコットは、**親に必要なことは2つだけ**と言いました。**最初は子どもの世話を没頭すること**。笑ったり泣いたり声を出したりするとすぐに大人がキャッチして返してくれる。そうやって、「世界が自分に応答してくれる」ことで身近な大人との愛着関係が築かれていき、「自分を出していいんだ！」という自己肯定感が育つ子どもになっていきます。その**次には**、子どもへの没頭状態から徐々に抜け出して、**親自身が自分を取り戻す**。このときの**子どもへの関与の仕方は「ほどよくかかわる」こと**。なので、「いやいや」期には、ほどよくかかわって、少しはなれて少し余裕もって見守るくらいがちょうどいいです。子どもの「いや！」と主張する自我に対して、「だめでしょ」「いけません」と追い込むのではなく(子どもはますます「いや！」と反発せざるをえなくなります)、大事なことは、子どもの「自分で」「自分がやりたい」を、まず受け止めて、「～したいのね」「やりたかったのね」と言葉にして、「あなたの気持ちわかってるよ♡」メッセージをおくることです。すると、子どもは後で大人の言い分を聞くにしても、「わたしの気持ちわかってくれてる」と共感してもらえたと感じることで、折り合いをつけやすくなります。また、「どっちがいい？」と選択肢を示したり、「もういっぺんやってみようか」と投げかけたりして、気持ちを立て直していけるようにもっていくことや、やろうとしていること、がんばっているところを取り上げて「すごいねえ！」と褒めることも効果的です。こうして、子どもは徐々に親の支えがなくても自分の中でコントロールして立ち直っていけるようになります。この「いやいや」期をのりきり、乳幼児期に親子で紡いだ豊かな共有体験は、やがて訪れる思春期の嵐をのりこえていく心の芯になっていくことでしょう。

以下は、本園職員の3歳後半になるたっくん(仮名)の子育てエピソードです。♡♡

◆3歳後半 自我真最中!のわが子・子育て奮闘記

いま、うちの子は「いや！」はもちろん、「自分で～したかった！」という自己主張が激し

くなり、親も日々奮闘している毎日です。余裕がないときは「じゃあ、どうしたいの?」「もう早くして!」とイライラすることもたくさんあります。でも、どんな姿にも子どもなりの思いがあるんだな、大事にしたいな…と思ったある日のエピソードです。

.....♪.....♪..... (^_^)

休日の朝、起きてきたたっくんに「何食べる?」と聞くと、「いつものパン」と答えたので、私はいつも食べている食パンにハチミツと黒蜜をぬったパンを用意しました。すると、それを見たたっくんが「自分でしたかった」と泣いて怒ったのです。私はいつもなら「じゃあ、もっと早く言ってよ…」とイライラするのですが、あの記事を思い出し、もう1回自分で作るチャンスあげようと思い、「じゃあ、これは父さんにあげて、たっくんはこれに自分でぬる?」と言って新しいパンを出しました。しかし、たっくんはまったく納得した表情ではなく、眉間にしわ寄せ首を横にふって「そのパンがよかった…」と最初の1枚目のパンを指さしました。



私は(困ったなあ…もうぬってしまったし…。でも今日は休みだし、こうなったらたっくんのやりたいようにさせてみよう)と腹をくくり、「じゃあ、たっくんはどうしたい?」と聞きました。たっくんは10秒くらい考え、「もう1回上から自分でぬる!」と自分でどうするかを決めたのです。私は心底(すごい!)と思いました。

本当は、最初から自分でぬりたかったのに、どうしようもない現実を受け止め、どうすればよいのか自分なりに新たな方法を考えたたっくんの姿に、成長を感じました。私は「いい考えだね」と言って、たっくんにハチミツを渡しました。「このぐらいでいいかな〜?」と言いながら量をかげんして自分で作ったパンを誇らしげにトースターに入れて焼けるのを待つたっくん。その姿からは嬉しさとワクワク感があふれていました。焼けたトーストを1つ食べると、「ん〜、おいしいね〜」と言いながら、とても満足した表情でした。いつもと同じパンでしたが、そのパンにはたっくんの気持ちがこもっていて、きっと格別なおいしさだったのだろうなと感じました。



【親として 保育士としての感想です】

今回のエピソードのような場面は、日常の子育てや保育の中でたくさんあります。その都度、子どもの思いに気づき、受け止めていくことは難しいけども、やはり子どもの姿の中にある思いを大切にすることの積み重ねは、「自分の思いをわかってもらえた!」という自己肯定感につながり、自信になり、「自分で!」という意欲になっていくのかなと感じました。

また、親は10回のうち2回くらいピントの合った対応ができればよいという「ほどよいかかわり」の言葉に、私はすごく救われました。今回のエピソードで、わが子のことはもちろん褒めたのですが、心の中では珍しく、親の自分のことも褒めてあげました。今後はいつもできなくても、2割できたときは自分のことも褒めてあげようと思います。(本園職員記)

園長の

ことば・子育て相談会 次回は9月17日(土)に行います



「園長の相談会」というと大げさですが、これまで私自身がお父様やお母様たちの子育てにまつわのお話を聞かせていただき、自分の子育てのことも思い出しながら楽しませていただいています。「うちの子のこんなところがかわいいんよ!」という自慢話も大歓迎です。ぜひお気軽におこしください。なお来月の8月は出張があつて重なるため、土曜日の相談会はお休みさせていただきます。ご希望の方は平日でもお受けしますので、遠慮なくご連絡ください。次回は9月17日(土)を予定しています。